

平成25年9月
第32号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
野村親信
編集発行人
広報担当
磯尾進

新会長挨拶

首都圏段戸会会長
野村親信 (高16回)



私は、昨年10月の首都圏段戸会総会で永田宏会長の後任として会長に選任されました。高校16回生の野村親信でございます。身に余る大役ではありますが、役員一同及び世話人の皆さんとも力を合わせ、会の発展のために尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

我が岡崎高校は、明治29年に前身である愛知県第二尋常中学校が、在京書生達からなる三河郷友会の熱意と地元経済界の後押しで創立されたとのことですが、その後変遷を経て現在文武両道に秀でた全国に名を知られる学校の一つになっています。今年の3月には第2回科学の甲子園大会で全国優勝すると言う快挙を成し遂げ、同窓生の一人として大いに誇りに思った次第であります。

私が岡崎高校を卒業しましたのは、ほぼ半世紀前の昭和39年ですが、今でもあの長い坂道を歩いて通った3年間のことは良く思い出します。多感であったがゆえに悩みも多くありましたが、生涯の友

人を見付け卒業と同時に故郷を離れ上京すると言うその後の人生の方向を決めた時期でもありました。

その後の大学生活、海運人としての会社生活において、様々な局面で岡崎高校の同窓生と出遭い助けられてきました。その縁と絆が今こうして同窓会のために働く場を与えられたことに繋がったのだと考えています。

首都圏段戸会の役目は、時期こそ違え同じ学舎で学んだ同窓生が先輩・後輩の垣根を越えて交流の輪を広げ、また遠くから母校の発展を見つめ支えて行くことだと思えます。首都圏段戸会の活動としては、年一回の総会・懇親会の他に、様々な趣味の会、段戸フォーラム等がありますので、皆さんの積極的なご参加を大いに期待しております。

経歴：昭和39年 岡崎高校卒業
昭和43年 一橋大学商学部卒業
平成21年 第一中央汽船(株) 社長
退任
趣味：ゴルフ、俳句、麻雀

平成25年度世話人

- (高2回) 服部 登 鼎
- (高3回) 丹羽 弘 政
- (高6回) 有馬 定 利
- (高7回) 是津 嘉 久
- (高8回) 杉浦 厚 生
- (高9回) 岡田 敏 夫
- (高10回) 山本 眞 司
- (高11回) 永田 宏 淳
- (高12回) 鶴田 文 男
- (高13回) 中 浩 之
- (高14回) 磯尾 進 子
- (高15回) 神谷 国 広
- (高16回) 鈴木 弘 恵
- 野村 親 信

- (高17回) 伊與田 正 彦
- 佐伯 寛 子
- 山田 博 邦
- 伊藤 博 宏
- 音部 昌 恵
- 山 中 恵
- (高19回) 都築 正 行
- 福山 透 明
- 村木 央 明
- (高20回) 天野 隆 太郎
- 辻村 貴 典
- (高21回) 小栗 恵 子
- 山田 俊 文
- (高22回) 上田 洋 子
- 中村 賢 治
- (高23回) 野々 山 浩 三
- (高25回) 戸田 讓 三
- 樋江 井 和 徳
- (高26回) 織田 利 彦
- 山口 知 子

- (高27回) 長田 光 雄
- (高30回) 米津 智 徳
- (高31回) 高原 正 之
- (高33回) 阿部 由 美 子
- 野村 明
- (高34回) 板谷 敏 正
- 井上 由 美 子
- (高35回) 岡田 敦 嗣
- 菅 伸 介
- (高38回) 中西 和 幸
- (高40回) 大田 武
- (高41回) 平山 健 二
- (高42回) 長野 麻 子
- (高43回) 八田 益 之
- (高44回) 松尾 直 樹
- (高45回) 筒井 貴 之
- 西浦 瑞 恵
- (高46回) 朝岡 大 輔
- 大川 博
- 小椋 俊 博
- (高47回) 杉本 いづみ

- (高48回) 藤井 晋 也
- (高49回) 青島 信 吾
- (高50回) 鳥居 福 代
- (高52回) 今泉 貴 雅
- 近藤 佳 子
- (高53回) 小野 靖 子
- 辻内 直 子
- (高57回) 川口 敦 子
- 山岡 玲 子
- (高58回) 石川 航 己
- 鈴木 菜 穂 子
- (高59回) 竹内 愛 実
- 塚本 有 香
- 内藤 茂 弥
- (高60回) 篠原 国 智
- 杉浦 綾 香
- 吉村 圭 吾
- (高61回) 新見 由 佳
- (高62回) 大山 なつみ
- 粟津 文 香
- (高64回) 細井 美 裕

“段戸囲碁会” (代表：藤田 訓弘 高13回) kfujita@muc.biglobe.ne.jp

“段戸音楽会” (代表：山田 博子 高17回) marcialgow2w-danon3@memoad.jp

“段戸句会” (代表：小森 蓑子 高13回) shigeko_komori@ybb.ne.jp

“段戸「山の会」” (代表：板谷 敏正 高34回) itaya@propertydbk.com

“段戸ゴルフ会” (代表：木村 富司雄 高10回) BYR10566@nifty.ne.jp

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ (変更しました) <http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索

特集

人生お楽しみ中！

日々是好日

高10回 山田 敏



満六十歳の定年退職の日から、私は三つのことを始めました。

その第一は日記を書くことでした。今日一日何をして過ごしたか、何かに感動したことがあったか、何かに腹が立ったか、何を食べたか、等々具体的に毎日書きました。この日記は一年後に「定年日記」というタイトルでエッセイとしてまとめ、出版しました。自分の生き方を総括し、

反省する意味でも良かったと思っています。

日記は、間もなく七十四歳になる今でも毎日欠かさず書いています。

二番目は岡崎在住の姉の勧めで俳句を始めたことです。月刊の同人誌の為に毎月五句を作らなければなりません。俳句は日常生活の中で、自分が感動したことを季語を入れて五七五に美しくまとめるものです。年齢を重ねると、どうしても物事に感動しなくなります。しかし、俳句を作る為には、感動が条件です。小さくても良いから、感動を探す努力をすることになります。これは、かなりのプレッシャーです。

ほけない為には、親しい仲間との会話や好奇心や感動が必須と言われます。俳句は、その意味で私に有効に作用していると思います。

三つ目は囲碁です。現役の頃から休み時間や休日に囲碁を打ってはいましたが、定年後は、かなりの時間を囲碁に費やすようになりました。碁会所には週に一、二回行きます。今、六段で打っています。会社のOB会、マスコミ関係OB会、地域の囲碁クラブ等々、色々な場での囲碁大会に参加しています。

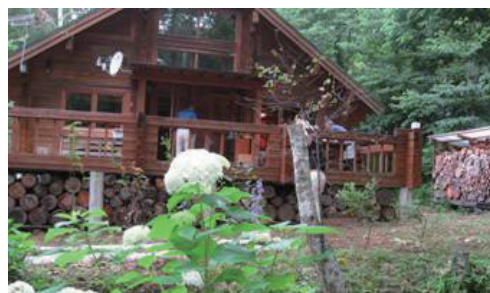
囲碁の歴史は古く、三千年以上にもなると言われています。日本では、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康も碁を打っていました。山本五十六元帥もかなり強かったようです。戦略的観点から見て、囲碁は戦争と共通したものが有るようです。囲碁は私に人生の在り方を教えてくれました。

現在実践している三つのことをご紹介しましたが、この他、短期間ではありますが、農業をやりました。定年退職して間もなく、国分寺市が主催する農業大学に入り、二年余り農業の勉強をしました。この後、市から市民農園の一区画を借りて、有機栽培で野菜を作りました。猫の額のような畑でしたが、なす、きゅうり、トマト、ピーマン等自宅で食べる野菜は十分賄うことが出来ました。食べ切れない時には、近所に配ったりしました。

岡崎から東京に出て五十余年、会社を退職してから間もなく十四年、今は住み慣れた国分寺の自宅で、岡崎出身の妻と静かな余生をエンジョイしています。長女が大阪に、長男がロサンゼルスに居ますので、それぞれとテレビ電話で時々会話をしています。糖尿病との付き合いの関係で、玉川上水遊歩道を毎日三十分歩いています。

八ヶ岳山荘記

高12回 成瀬 徹



22年も前の話です。八ヶ岳の西山麓に山小屋を建てました。今は毎月10日間ほどこの山荘に入り浸っております。昨年、

古稀を過ぎたというのに未だ仕事から離れられず、住まいの柏市と山荘がある諏訪郡原村とを往復する生活です。標高1,230メートルにある山小屋の前には清らかな水と優しいせせらぎの音が聞こえる可愛い小川が流れています。ここにフィンランドの小さなログハウスを建てました。

森の中ですから空気は美味しく空は澄んでいます。春の芽吹き時は日々成長する新緑が生命感に溢れて眩しいです。鹿の家族が山奥から里に下りてきて新芽を食べるのもこの頃です。梅雨時は草刈り機で雑草との格闘です。敷地が800坪もあると草刈りの作業自体がすでに拷問です。体力との勝負です。夏は陽の光が強烈ですが木陰に入れば天国です。できたての森の酸素を吸って涼風に身を任せ過ごすひとときは至福の時間です。ゴルフの合間を縫って夏の夜、月が出る直前に見る天空のミルクウェイは見飽きることがありません。9月半ばには秋が始まります。10月末には錦秋の絨毯に囲まれます。八ヶ岳の秋は何度迎えても感動します。私も有賀峠、

杖突峠、そして入笠山など様々な角度から秋の八ヶ岳を油絵に描いてきました。今までに数々の画家を引きつけてきた八ヶ岳の魅力が色褪せることはありません。ところが最も魅力的な季節は実は冬にあります。冬場こそ森に住む動物たちと間近にふれあえます。鹿の家族は毎晩のように決まった獣道を通ってやってきますし、ベランダに作った小鳥の餌箱にはシジュウカラなどの小鳥が絶え間なく出入りします。たまには餌箱にリスがチョココンと座り込んで小鳥用の向日葵の種を食べています。自然の中に生きていることを実感する瞬間です。寒さに凍えて部屋に入り、薪ストーブに薪を焚いて一口飲む酒の味は又格別です。ただ、ストーブに焚く薪は全て自分で作らなければなりません。夏から秋に、せっせと薪割りに励むのです。これも20年来の仕事で今やベテランです。ただ、古稀を過ぎた体にこの作業は非常に応えます。やはり楽しむためには相応の苦労もあるのです。小鳥の巣箱を取り替えるのも冬の間の仕事です。古い巣箱では新しい生命は作られません。

あと何年こんな生活ができるのかわかりません。伊達政宗の「残軀天の赦すところ、楽しまざるをこれ如何せん！」とのセリフが実感されます。

様々な思いを馳せながら人生の残り火を八ヶ岳の麓で燃やしています。



特集

なぜこの仕事を？ — 建築・インフラの巻

魅力ある駅をめざして 高45回 辻内 理枝子



私は今、鉄道会社で建築の仕事をしています。鉄道会社というと運転士や駅での仕事がイメージされ、「鉄道」と「建築」はどう関係するの？と思われる人もいるかもしれませんが、列車に乗るときに利用する駅も建築ですし、車両をメンテナンスする工場なども建築です。鉄道に関わる様々な建築物を扱うのが私の仕事です。

「なぜこの仕事を」と問われて考えると、建築を専攻していた学生時代に「駅」に魅力を感じたからでした。人が集まって旅立つ場所であり、仕事、旅行、誰かに会いに行く…、それぞれの目的を持った多くの人が毎日行き交う場所である駅には様々な可能性やワクワクする何かがあるように思いました。また、現実的なところでは自社の建物を扱うということで、建築の計画、設計、工事の監理、維持管理、場合によっては撤去、といった建物のライフサイクルのすべてに関わる機会が持てることも面白いところだと思います。

入社以来、幾つかの駅のバリアフリー化、東海道新幹線の東京駅改良、リニア実験線延伸、など様々なプロジェクトの

担当を経て、今は在来線の橋上化の仕事を担当しています。これは自治体が主体となって実施する事業で、線路を跨ぐ自由通路の整備に合わせて、現状は地上にある駅を自由通路から接続できる上空(=橋上)に新設するものです。駅は地域の重要な拠点であり、また自由通路は駅前広場や道路などの周辺施設と一体となって計画されることも多いことから、地元からの期待の大きさと責任を感じる日々です。また、駅の工事の特殊性として休業日がないことが挙げられます。365日お客様が利用され、常に列車が走る中で工事を行う必要があるため、お客様にご不便をおかけせず、また安全を確保しながらいかに効率的に工事を完了させるか、を常に考えながら設計や工事を進めています。

これまでの仕事を振り返ってみると、一番の魅力は、自分の仕事が形に残ること、自分が関わって作った駅が多くのお客様に利用していただけること、そしてその様子を自分の目で見るができることです。エレベーターを一つ設置するだけのバリアフリー工事であっても大規模駅の改良であっても、自分が苦勞して計画、工事をしたものは思い入れがあり、お年寄りやベビーカーのお客様を含めたくさんの人に使用されている状況を見るとうれしく思います。建物は一度作ったら長期にわたって使用されるものです。多くの人に今までより気持ち良く使ってもらえる駅になり、いつになっても自分が関わったことを誇れる仕事をしたいな、と思っています。

後悔しない進路選択 高53回 服部 昌平

私は今、JR東海で超電導リニアモーターカーの台車開発に携わっている。5年前、私が入社した当時は、総合職技術系の社員は、基本的に研修として新幹線運転士として働くこととなっていたため、新入社員研修後半年程かけて運転士免許を取得し、実際に数ヶ月運転士として乗務したこともある。その後、山梨実験センターでリニア車両のメンテナンスの仕事を1年弱した後、現職に就いた。

あまり知られていないと思うので運転士の生活を少し紹介しておく、運転士は基本的に1泊2日の泊まり勤務。昼頃に出勤し、制服に着替えて点呼を受け、乗務列車のダイヤや、徐行区間などを確認する。その後、乗務列車に乗り込み運転する。夜は乗務員宿泊所で仮眠をとり、翌朝再度乗務して、2日目の昼頃に勤務終了。2日で東京-新大阪間を大体2往復するのが一般的となる。ダイヤは発車、通過、到着とも15秒刻みで決まっており、運転士はこの秒単位の時間感覚を徹底的にたたき込まれるのである。貴重な経験をさせて貰い、鉄道員としての安全・安定輸送の基本を学ぶことができた。

私の場合、「なぜこの仕事を？」という問いに最も簡潔に答えるとなると、「鉄道が好きだったから」である。幼い頃から乗り物、特に電車が好きだった。小学生の時も、図書室でよく鉄道図鑑を見ていた。岡高でも鉄道研究部に入っていたし、大学でも鉄道研究会に入った。

ただ、私は進路をなかなか決められなかった。機械も、建築やコンピュータも法律も面白そう、と目移りし、高校でも最終的に何になりたいかははっきりしなかった。理科は好きだったし理系のほうが潰しが効くと考え、数学が苦手なのに理系

を選択した。進学も、東京大学なら学部・学科の決定を大学2年まで先延ばしにできる、と考え猛勉強して何とか滑り込んだ。

最初からやりたいものが決まっている人はその道を目指して真っ直ぐ進めば良いが、まだ決まっていない人には、選択肢を極力狭めないようにしつつ、決定の時期を先送りすると言うのも一つの手段かと思う。先送りしつつも、それによって稼いだ時間で決断の判断材料をしっかりと揃えるようにすることが重要である。私も大学に入ってから、源氏物語、憲法から量子力学、バイオまで様々な講義を受けてみてから機械工学を専攻することにしたり、就職先の判断材料にするため、大学時代に10以上の会社の工場見学や工場実習に参加した。人に流されたり決めて貰うのではなく、見聞きしたことを元にしっかり考えて、自分で納得のいく決断をすることで、絶対に後悔しない進路選択ができるものと信じている。



同期の仲間

「岡崎三期会」

高3回 丹羽 鼎

高3回は、前後の幾つかの年次の中で、首都圏段戸会総会・懇親会への出席者が、抜きん出て多い事は、皆さんご存じだと思います。

我々の年次は、名簿でも併23・高3回と記されている通り、学制改革の波をまともに受けた年次です。旧制中学二年の時に、6・3・3制が実施され、校名が、新制高校併設中学校に変わり、中学三学年を終わった時に、自動的に新制高校一学年になりました。また、高校一学年の終わりには、学区制が敷かれて、それぞれの自宅が属する学区の高校に転入する事となり、岡崎市内に住む生徒も岡崎高女を母体とする市立高校（現北高）と従来の岡崎中学を母体とする県立高校に分かれることとなりました。学区制によって、別れ別れとなった我々にとっては、高校は別になっても机を並べて共に過ごした仲間を忘れる事はありません。このため、我々の同期会は、卒業した高校に拘らず、岡崎で共に学んだ仲間が集まる場となっています。首都圏では、岡崎三期会と名付け、毎回、段戸会終了後の二次会を行っております。関西においても、同様に、関西三期会として、毎年、同期会を開催しております。

岡崎においても、岡中仁王会が設立されており、行事には、女性も参加しています。

中学一年に入学し、焼夷弾や艦載機に追い回され、勤労奉仕に駆り出され、食糧難に耐え、学制改革にも振り回され、社会へ出てからは、戦後の復興と、これに続く経済発展の中を、夢中になって過ごしてきました。

昨年から今年にかけて、傘寿を迎えた我々は、今後更に健康に留意して、変わらぬ友達付き合いを続けたいものと願っています。首都圏段戸会総会・懇親会に、大勢の仲間が顔を合わせられる事を楽しみにしています。



平成24年10月27日 段戸会懇親会にて

第19回段戸フォーラム (2013.6.19) 報告 「環境と化学物質」

講師：伊與田正彦氏（高17回）

阪大博士課程修了（理学博士）。阪大理学部助教授、都立大学教授を歴任。現在、首都大学東京特任教授。2012年度日本化学会学術賞を受賞。



PM2.5が話題視されている中、「環境と化学物質」と題して事例を交え分かり易く解説していただきました。

ダイオキシンは最近の被害例から、BSEはリスクの観点からそれ程恐れることはない。環境ホルモンはプラスチックの食器から溶け出したものではない。サリドマイドは妊婦には毒性が強いがハンセン病や骨髄腫の特効薬である。

私は今までこれ等を危険大と思い続けてきました。有害物質による被害はマスコミ報道により私達の記憶に深く刻まれますが、その後は殆ど更新されません。確かな新情報を積極的に収集する必要があると感じました。PM2.5は毛髪の1/30という微粒子

で空気中に漂い、肺の奥深く入り込み発癌作用を示すことを知り、この繊細な見事なまでのメカニズムには自然の神秘さえ感じました。その他注目すべき最新情報の数々は即、日常生活に活かし今後の学びに役立たせたいと考えます。

質疑応答は真剣な中にも終始和やかな雰囲気で行われ、今後も化学者として同窓生への最新情報の公開を是非お願いしたいとの強い要望が出され心強く思いました。

二次会では講師のドイツ留学時代の武勇伝の素顔も紹介され又趣味の話題でも盛り上がり、世代間の交流も深まりました。お互いに次の再会を楽しみに会場を後にしました。今、厚労省・農水省に拠る美味な牛肉の写真付きの“BSE対策が国際的に認められた日本”のポスターを横に久しぶりに安心して、心が和みます。

山田博子（高17回）

段戸句会 活動報告

段戸句会は2004年に首都圏段戸会のサークルとして発足しました。俳句に興味のある同窓生が楽しく学び、交流する会です。ネットを使った会なので、仕事や家事でお忙しい方、在校生、遠くにお住まいの方でも気軽に参加できます。現在は首都圏を中心に東海地区からの参加もあります。



より良い句作のために、同窓の平田冬か（14回、旧姓仙波環）さんに指導をお願いしています。冬か先生は高浜虚子を直系とする俳句結社「かつらぎ」の副主宰であられ、NHK俳句の選者としても忙しくご活躍中ですが、岡崎高校の卒業生として協力下さっています。先生の結社を問わない広い視野での選や添削、講評には高い定評があります。

会は数人の尽力により、ネット上で“投句—互選—先生による選、添削、講評—首都圏段戸会のホームページ掲載”となります。

投句…………… 奇数月の月末までに投句。兼題または当季雑詠で5句まで（実際には殆どの方が5句投句しています）

互選…………… 名前を伏せた投句の中から、各自特選3句、入選5句を選んでコメントを付けます。3年前より始めたこのコーナーは楽しい交流の場でもあります

選、添削、講評… 先生の選句。特選だけでなく沢山の句に添削と講評を頂いています。語順や助詞の一字を入れ替えたり、適格な語に添削されると句は驚くほどの佳句に変身します。また何故そのように添削されたかについての懇切丁寧な講評は勉強になります。

首都圏段戸会のホームページに掲載されます。

ネットだけでなく冬か先生上京の折に上野公園、新宿御苑、港の見える丘や一昨年には6回生の方達と合同で三溪園を吟行しました（写真）。目の付け所や語彙の使い方などを教わりながらの有意義な吟行でした。

私事になりますが俳句を始めたことにより、今迄気づかなかった自然や季節の変化、人人の生活の中に小さな驚きと感動を得て日々の暮らしが豊かになりました。興味をお持ちの方は気軽に野村親信（nomurac@jcom.home.ne.jp）小森葆子（shigeko_komori@ybb.ne.jp）にお問合わせ下さい。皆様のご参加をお待ちしています。

小森葆子（高13回）

近年の冬か先生の句と会員の句を紹介します。

- 春の空飛べさうシヤガール展を出て 平田冬か先生
- 日照る白昼（ひかげ）る白や水芭蕉 〃
- 土を割りいきなり花やクロツカス 〃
- * * *
- （ ）内本名
- 筍の掘つて欲しげに顔を出す 市川毅（7回）
- 末広に棚田千枚豊の秋 山崎圭子（10回）
- 木の葉髪子に従ふも親心 本多登代子（10回）
- をみな等は意気高くしてビール干す 林雪音（泰子、11回）
- 詰襟のアルバム写真黴臭ふ 本多悠天（正之、13回）
- 蝌蚪よりも小さき蛙となりにけり 杉原洋馬（洋、13回）
- 風涼し書を置き眺む木々の揺れ 新井康夫（13回）
- ひと畝を残して仕舞ふ秋の暮 鈴木康允（13回）
- 高鳴れる津軽三味線外は雪 小森葆子（13回）
- 葦原の秋の入日に櫓を早やむ 宮田望月（恵美子、13回）
- コンクリの壁がキャンパス蔦紅葉 中島彩（綾子、14回）
- 雲海を突き破りをり槍ヶ岳 満江信之（15回）
- 母の日に母になるとの知らせかな 鈴木木正紘（鈴木、15回）
- 赤子には赤子の夜長ありにけり 宮崎勉（16回）
- 狐狸河童民話の村に雪降り 野村親信（16回）
- 酢醤油は母の塩梅心太 鈴木六花（弘恵、16回）
- 求道の如みな無口雪を搔く 鈴木寛（17回）
- 秋爽やものみな影を濃くしたる 深谷美智子（17回）
- 浮人形掬ひといふも祭店 中野美奈子（35回）

編集後記

5年10回の会報編集を今号で終えます。

すばらしい内容とステキな文章の原稿を真っ先に読む幸せを味わい、魅力あふれる方々と原稿を通して知り合う役得を楽しみました。書いてくださった皆様、読んでくださった皆様、ありがとうございました。 編集発行人 高14回 磯尾 進

第41回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日 時 平成25年10月26日（土）13：00～16：50

●場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）（右地図参照）
千代田区九段北4-2-25（TEL 03-3261-9921）
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）
から徒歩2分



●講演会 演 題：認知症の理解と援助
講 師：杉山孝博氏（高18回） 川崎幸クリニック院長

最近厚生労働省研究班の発表では462万人の認知症の人がいるといわれる現在、認知症は誰にとっても身近な問題となりました。重要なことは、認知症を正しく理解すること。講師が工夫した「認知症をよく理解するための9大原則・1原則」などを知ることで、認知症の人の世界や家族の変化がわかるようになります。認知症の人の「異常な言動」は決して異常ではなく、同じ状況になればだれもが行う言動にすぎないと知ることで、介護する人の気持ちが変わります。「目からウロコ」の体験を、あなたもどうぞ！

プロフィール：

東京大学医学部付属病院で内科研修後、患者・家族とともにつくる地域医療に取り組もうと考えて、1975年川崎幸病院に内科医として勤務。以来、内科の診療と在宅医療に取り組んできました。1998年川崎幸病院の外來部門を独立させて川崎幸クリニックが設立され院長に就任し現在に至る。1981年より、公益社団法人認知症のひとと家族の会（旧呆け老人をかかえる家族の会）の活動に参加。全国本部の副代表理事、神奈川県支部代表。公益社団法人日本認知症グループホーム協会顧問、公益財団法人さわやか福祉財団評議員。

著書：

『家族が認知症になったとき本当に役立つ本』（洋泉社、2012年）、『こころライブラリー イラスト版 認知症の人のつらい気持ちがわかる本』（講談社、2012年）、『認知症・アルツハイマー病 介護・ケアに役立つ実例集』（主婦の友社、2011年）、『家族が認知症になったら読む本』（リヨンブックス、2009年）、『杉山孝博Drの「認知症の理解と援助」』（クリエイツかもがわ、2007年）など多数

●会 費 リーマンショックの影響を考慮して平成21年以降、会費の1,000円割引（学生会員を除く）を行ってまいりましたが、その後、総会・懇親会費用増等の諸事情を勘案し、今回以下の通り、従来の会費に戻させていただきますので、よろしくご了承下さい。なお、古希年次（高14回）の方
はご招待申し上げます。

男 性 8,000円 女 性 6,000円

ただし、以下の会員については、特別割引があります。

古希を過ぎた会員（高13回以前）	5,000円
若手会員（高51回以降）	5,000円
学生会員（大学、大学院、専門学校等）	1,000円

●招聘恩師（予定）

成田 重忠（英語）	内田 年一（保健体育）	丸山富久治（英語）
岡本 建国（社会）	室（杉浦）庸子（家庭）	

運営協力金寄付のお願い

首都圏段戸会会長 野村 親信 (高16回)

平素は首都圏段戸会の活動にご理解、ご協力いただき、まことにありがとうございます。

首都圏段戸会では1972年、第1回総会が開催されて以来、回を重ね、今年で41回目を迎えることになりました。当時、数10名を数えるほどの出席者も、最近では200名を超える状態が続き、昨年も250名ほどの方に参加をいただいております。これもひとえに会員の皆様のご支援の賜物と、心より感謝しております。

首都圏段戸会の特徴は、岡崎高校の長い歴史を活かし、首都圏在住の大学生、社会人、さらに定年退職された方々が一体となって、上記総会のほか、イベント、サークルなど、さまざまな活動を行っている点であります。たとえば、現役の岡高生を対象とした「オープンキャンパス」は若手会員である大学生が主体となって運営し、大学、研究室の見学とともに、懇親会を通じ、進路相談の一助の役目を果たしております。また、生活、文化、政治、経済などの分野で目覚ましい活動をされている会員の方を講師として招く「段戸フォーラム」、さらに、俳句、囲碁、山登り、音楽といった分野で、幅広い年次の同好の会員による「段戸サークル」があります。いずれも若手会員と先輩が交流を深められる場として提供されたものです。こうした活動は、春と秋の年2回、「首都圏段戸会会報」を通じて、会員の皆様方にお伝えするとともに、タイムリーに情報提供するために「首都圏段戸会ホームページ」も開設しており、会員同士でさまざまな情報交換も行われております。

上述の諸活動の基盤は企業や団体からの寄附ではなく、会員の皆様から頂戴している「運営協力金」によるものです。そして、各卒業年次から集まった80名ほどで構成される世話人の方々による「ボランティア活動」です。

このように、首都圏段戸会は会員の皆様のご支援、ご協力に支えられ、人間的な手作りの感触を大切にしながら、運営されている同窓会です。つきましては、首都圏段戸会の活動について、これからもますます充実したものにしたいと考え、これまで以上に幅広く、会員の皆様からの運営協力金のご寄付を募りたいと思います。ご協力のほど、よろしく願いいたします。

首都圏段戸会会計報告 (平成24年度)

貸借対照表

平成24年12月31日現在 (単位：円)

科 目	金 額	額
I 資産の部		
現 金	0	
通 常 貯 金	1,482,704	
郵 便 振 替	0	
資 産 合 計		1,482,704
II 負債の部		
未 払 金		0
負 債 合 計		0
III 正味財産の部		
正 味 財 産		1,482,704
負債及び正味財産合計		1,482,704

収支計算書

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで (単位：円)

科 目	金 額	額
I 収入の部		
総会懇親会会費収入	1,127,000	
運 営 協 力 金	1,351,520	
寄 付 金	50,000	
受 取 利 息	296	
そ の 他	700	
当 期 収 入 合 計		2,529,516
II 支出の部		
総会懇親会費用	1,475,563	
会 報 費 用	794,650	
世 話 人 会 費 用	132,680	
雑 費	64,226	
当 期 支 出 合 計		2,467,119
当 期 収 支 差 額		62,397
前 期 繰 越 収 支 差 額		1,420,307
次 期 繰 越 収 支 差 額		1,482,704

監査報告書

首都圏段戸会の平成24年度（自平成24年1月1日 至平成24年12月31日）の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成25年7月3日

会計監査 辻村 貴典

会計監査 戸田 謙三

平成24年度運営協力金寄付者

(校長)	高須勝行	宏治穂之典	(高21回)	夫二樹茂子
(賛助法人)	(株)文化工房	豊美義宣		土良波恵
	スターツコーポレーション(株)	田部野崎月林		井本知野栗田久
	田辺総合法律事務所	永服藤水山岩大菅		細山阿天小徳早丸川山近
(中40回)	阿部茂	三郎淳子成雄苗己憲	(高22回)	子清一男博雄人治市子保之雄
(中41回)	近藤肇	樹三泰慶正早喜		純一純忠照正幸金洋光弘龍章
(中43回)	鷗野庄二郎	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(中47回)	神谷和郎	杉中林本村梅奥後立鶴田中瀬		深矢足渥大清水田兵矢上齐新鈴長
	早川弘賢夫	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(中48回)	森村武祐	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高1・中50回)	陶山祐司	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高2・中51回)	宮島敦敏	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	青井藤重	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	今井弘一	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高3・併23回)	阿部恭道	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	伊藤芳康	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	荻野正	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	加藤千代	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	高井美智子	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	高木次男	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	高須芳昭	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	松井津美	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高4・併24回)	成瀬英二	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高5回)	杉浦野	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高6回)	有馬弘	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	嶋田正	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高7回)	青山通	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	大小藤悦	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	是津定	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	永田綾	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	吹田敬	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	向井けい	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高8回)	安藤逸	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	梅村圭	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	大工藤野	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	杉本厚	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	田中久	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高9回)	岡田敏	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	金井山	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	小高村	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高10回)	安佐美	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	宇村富	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	杉浦幸	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	竹谷田	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	藤安山	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
(高11回)	山本か	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	青木紀	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	石伊與	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷
	太田栄	山根多田垣村藤花田真喜		津吹立美水田藤田田藤庄木谷